

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年12月16日
第48号

茶道部、稽古の成果を披露 「結構なお点前で」



毎週金曜日に裏千家の茶道を稽古している茶道部がお茶会を開いた。部長の長谷川心菜さん(21)は亭主の補佐をする半東を務めた。お茶やお菓子運ぶだけでなく、客人がくつろげるよう、お花やお茶の名前などを覚え、会話が弾むよう心がけた。部員は3年生2名、2年生4名で、1年生の入部を待っている。



お茶を点てる所作に注目。



お茶を運ぶ動作も美しく。

小樽再発見②③ 小熊秀雄(3)詩壇に新風 生活苦、拘留されても表現の自由追求

27歳で上京して39歳で亡くなるまでの12年間、小熊秀雄はどんな人生を送り、作品を残したのかを調査した。(作品は青空文庫で読める。)

病・弾圧はねのけ旺盛に詩作
一九三〇年(29歳)上京後の生活は楽ではなかった。家族三人が病気で生活は困窮した。一九三一年(30歳)プロレタリア詩人会に加入する。翌年、これが日本プロレタリア作家同盟(ナルプ)に発展する。秀雄も参加し、政府の弾圧が激しく検査され、29日間拘留される。一九三三年(32歳)小林多喜二が拷問死し、知らせを受けて、駆けつけ逮捕され、2回目の29日間の拘留を受ける。電灯も止められるほどの貧乏のどん底時代であったが、ローンクの下で旺盛に詩作を続けた。

詩壇に影響力

一九三六年(35歳)読売新聞に「文壇風刺詩」を連載、好評を得る。発表紙誌が広範になり10誌以上に詩、小説、評論、エッセイを発表する。稿料が入るようになり、生活はやや安定する。風刺詩興隆の波にのり、小熊の詩壇は詩壇に影響を持ち始める。



双葉歴史探偵事務所
□12□

馬上の詩(一部抜粋)
わが大泥棒のために
投縄を投げよ
わが意志は静かに立つ
その意志を捕えてみよ。(中略)
ただ私の大泥棒の仕事は
馬上で詩をつくること、
先駆を承わること、
前衛たること、
勇気を現わすことにつきる。
(後略)

9月、池袋美術家クラブ第1回展に「あいびき」を出品。
戦時下の言論統制
一九三七年(36歳)池袋でペン画の個展を開く。左翼系文学雑誌の廃刊が相次ぎ、発表の場が狭まる。7月、日中戦争が始まった後は稿料もあまり期待できない帝大、慶應、早稲田他の大学新聞に美術評論、詩、エッセイ等を寄稿する。

一九三八年(37歳)4月から6月、旭川に帰省、旭川新聞に「旭川風物詩」連載。帰京後、初めて嗜血。
「流民詩集」「火星探検」
肺結核で逝去
一九四〇年(39歳)『現代文学』に拠り「流民詩集」他発表。11月1日より14回に亘り、「問題の日本画家」を『国民新聞』に連載。旭太郎名で原作を書いたSF漫画『火星探検』ほか出版



翌年以降原作3作、案1作の漫画も出版され、これらの印税が後、遺族の生活の大きな糧となった。11月20日、肺結核のため、逝去。12月に『現代文学』で追悼号が出る。
(小熊秀雄詩集『長長秋夜』小熊秀雄賞市民実行委員会編より抜粋)